

令和4年度学校自己評価システムシート (県立鶴ヶ島清風高等学校)

目指す学校像	地域に貢献できる人材の育成
--------	---------------

重点目標	1 「自ら考える力」の育成 2 「健全な職業観・勤労観」の育成 3 地域との連携・協働による「地域参画力」の育成
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	12名
※令和4年度は書面審議で実施		

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (1月20日 現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	■現状 ・Chromebookやプロジェクター等のICT機器を活用した授業実践や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が広がりつつある。 ・各教科・科目の「評価規準」「学習評価計画」を作成し、令和4年度からの観点別学習状況の評価の導入準備が完了した。 ■課題 ・生徒の基礎学力を確実に定着させるため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる必要がある。 ・観点別学習状況の評価の導入に伴って、指導と評価の一体化を目指す必要がある。	新学習指導要領が目指す資質・能力の獲得に向けた授業の工夫・改善	①新学習指導要領の理念を全教員で再確認し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業研究・授業分析・授業評価に取り組む。 ②習熟度別授業や単位制のメリットを最大限に生かし、生徒の習熟の程度や学習状況に応じたきめ細かい指導を実践する。 ③「埼玉県学校教育情報化の方向性(R3.12)」における令和5年度入学生からの1人1台端末環境を想定し、Google WorkspaceやClassiの活用も含めたより一層の授業改善を行う。 ④学習方略や非認知能力を向上させるため、良い学級経営(落ち着いた学級づくり)を行うとともに、各教科・科目及び「総合的な探究の時間」において問題解決的な学びを展開する。	①③新学習指導要領の理念を踏まえた授業研究・授業分析・授業改善・授業評価に資する取組が充実したか。 ①②③④「学校評価アンケート」の学習指導に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ③授業内においてICT機器を効率的・効果的に活用する教員が更に増えたか。 ④「学校評価アンケート」の生活意識全般及び学校生活に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になり、大多数の生徒が良好な学級生活を送っている傾向が認められるか。	■新学習指導要領が目指す資質・能力の獲得に向けて更なる授業の工夫・改善が必要 ①③学力向上推進委員会による教員相互の授業観察週間の設定やClassiNOTEを活用した授業研究・教員研修等を実施した。 ①②③④「学校評価アンケート」の学習指導に関する調査項目の肯定回答割合は95.8%(昨年度94.2%)であった。 ③令和6年度までの3か年計画で整備される指導者用端末については、まずは学力向上推進委員会委員を中心に配当し、今後の全教員への整備に向けた授業内外での活用法を模索している。 ④「学校評価アンケート」の生活意識全般及び学校生活に関する調査項目の肯定回答割合は89.0%(昨年度86.9%)であった。	B	■次年度への課題 ・新学習指導要領で育む資質・能力の獲得に向けた各教科における指導に加えて、教科等横断的な学びも充実させる必要がある。 ・国の「学校教育情報化推進計画」(R4.12策定)と「埼玉県学校教育情報化の方向性」(R3.12策定)を踏まえ、令和5年度入学生からの1人1台端末環境下における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる必要がある。 ■改善策 ・養成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえ、授業研究(研究協議)・授業分析・授業評価等に取り組むとともに、教科等横断的な学習を一層推進する。 ・教務部及び学力向上推進委員会が主導し、ICTの効果的な利活用による校務の改善と教育活動におけるGoogle WorkspaceやClassi等の活用を総合的かつ計画的に行う。
2	■現状 ・各年次と進路指導部の連携による進路ガイダンス、会社見学や大学短大授業聴講等の体験的な活動を効果的に実施している。 ・集団生活におけるルール、マナーやモラルを遵守する指導を教職員が一致して実施している。 ■課題 ・新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながらキャリア教育をより一層充実させる必要がある。 ・本校の特色でもある体験的な進路行事を通じて生徒の職業観や勤労観を更に高めていく必要がある。 ・早期段階での明確な目標設定を促し、自律的・主体的な学校生活が送れるようサポートする必要がある。	キャリア教育を通じた社会的資質の伸長と社会的能力の獲得	①多様な進路希望を持つ本校生徒にきめ細かく丁寧に対応するために、集団に対する指導と個に対する指導を効果的に組み合わせ本校独自のキャリア教育プログラムを展開する。 ②「学校の新しい生活様式」を踏まえたインターンシップや大学・会社見学会等の体験的な進路行事の在り方を検討・実施する。 ③目標の明確化と目標達成に向けたモチベーション向上のために新たに年度当初の個別面談期間を設定するとともに定期的な生徒との面談を実施するとともに、Classiのポートフォリオ機能と生徒手帳(いまみらい手帳)を効果的に活用する。	①②③「学校評価アンケート」の進路指導に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ①②③3年次生徒の第1志望進路の実現率が9割程度になったか。 ②「学校の新しい生活様式」を踏まえ、新たな視点を持った体験的な進路行事が実施できたか。 ③生徒との面談が効果的に実施され、Classiのポートフォリオ機能や生徒手帳(いまみらい手帳)の活用が推進されたか。 ③「学校評価アンケート」の生徒の目標設定に関する調査項目や学校生活に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。	■キャリア教育を通じた社会的資質・能力の伸長・獲得が概ね実現 ①②③④「学校評価アンケート」の進路指導に関する調査項目の肯定回答割合は63.6%(昨年度61.0%)であった。 ①②③3年次生徒の第1希望進路の実現率(12月末現在)は91.2%(昨年度91.7%)であった。 ②昨年度に続き、リモート形式での進路ガイダンスや基礎力診断テストの振り返り当を工夫しながら実施した。 ③新たに二者面談期間(4月)を設定するとともに全校集会等において生徒手帳(いまみらい手帳)の活用法について指導した。 ③「学校評価アンケート」の目標設定に関する調査項目の肯定回答割合は97.3%(昨年度94.1%)で、学校生活に関する調査項目の肯定回答割合は85.1%(昨年度82.4%)であった。	A	■次年度への課題 ・体験的な進路行事を更に充実させて生徒の職業観や勤労観を高めていく必要がある。 ・早期段階から自己の能力・適性・感性等についての理解を深め、自己の成長を見据えた確かな進路選択に繋げる必要がある。 ・将来の職業生活に向けて基本的な生活習慣や規範意識を育み、利他の精神を更に醸成する必要がある。 ■改善策 ・生徒のニーズを踏まえたインターンシップや会社見学会等の体験的な進路行事を実施する。 ・集団に対する指導と個に対する指導を効果的に組み合わせ本校独自の特色ある「キャリア教育プログラム」を展開する。 ・全教職員の共通理解に基づき、遅刻防止、授業開始・終了時間や下校時間の遵守、授業規律の徹底、時と場に応じた身だしなみや所作などの指導を実施する。
3	■現状 ・新型コロナウイルス感染症の影響により学校行事及び授業等の公開は中止となり、地域貢献活動も限定的になっている。 ・「学校における働き方改革」を踏まえ、学校・家庭・地域の役割分担を明確化しつつ、連携・協働の取組を推進する必要がある。 ■課題 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しつつ、引き続き地域や家庭との連携・協働による教育活動を推進する必要がある。 ・県内中学校等卒業予定者数の減少を念頭に、効率的かつ戦略的な学校広報活動の在り方を検討し展開する必要がある。	学校・家庭・地域の連携・協働による教育活動の充実	①新たに設置した「協働教育ネットワーク会議」での意見・提言を踏まえ、地域の教育力を活用しながら、地域社会の担い手となる人材の育成と持続可能な地域づくりに取り組む。 ②学校公開や地域貢献活動等については、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、できることを無理のない範囲で実施する。 ③中学生及びその保護者等の中学校関係者に本校の教育活動の魅力をより効果的・効率的に伝える方法を検討・実施する。 ④学校Webサイトやメール配信システムに加え、YouTubeを利用した動画配信等、デジタル時代における新たな学校広報戦略を研究・実践する。	①②新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえながら、学校内外のステークホルダーとの良好な協力関係の形成・維持に基づく学校教育活動が展開できたか。 ③④学校広報・生徒募集業務の効率化と戦略的展開が進んだか。 ③④学校Webサイトの閲覧数が前年度を上回るとともに、「学校評価アンケート」の学校広報(学校Webサイト・メール配信)に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。	■現下の感染状況を鑑みて学校・家庭・地域との連携・協働による教育活動の充実を実現 ①②教育活動における制限や制約が続く中、地域企業や近隣の機関等と連携した3年ぶりのインターンシップや実習授業、鶴ヶ島市や地元企業との連携による全国鉄道模型コンテストへの出場などの取組を進めた。 ③④学校説明会の実施回数を5回(昨年度7回)とし、内容を見直すことで従事する教員数を大幅に削減するなど学校広報活動の効率化と戦略的展開を実現した。 ③④学校Webサイトの1日平均閲覧数(12月末現在)は約2,420件(昨年度1,940件)で昨年度比1.25倍に増加するとともに、「学校評価アンケート」の学校広報に関する調査項目の肯定回答割合は保護者86.0%(昨年度81.8%)であった。	A	■次年度への課題 ・WITHコロナ/AFTERコロナ時代における学校・家庭・地域との連携・協働による教育活動や地域貢献活動等を更に推進する必要がある。 ・学校における働き方改革を推進するため、県内中学校等卒業者数の減少を念頭に置きつつ、更なる効果的・効率的な学校広報活動の取組を模索する必要がある。 ■改善策 ・令和3年度に設置した「協働教育ネットワーク会議」での意見・提言等を踏まえ、学校・家庭・地域の役割分担を明確化しつつ、学校・地域の双方が「WIN-WIN」となるような取組を実践していく。 ・ICTの利活用も含め、本校の教育活動の魅力や中学生やその保護者等に向けてより効率的・効果的に伝える方法を検討・実施する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和5年2月3日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
■評価項目(年度達成目標)1に対する学校自己評価年度評価の達成度Bは妥当である。 ・先生の授業に対する姿勢や生徒の学校生活の充実感では、昨年度のアンケート結果をいずれも上回り高い評価を受けているので、引き続き、創意工夫した分かりやすい授業等をお願いしたい。 ・ICT機器は使うことが目的にならないよう生徒が学ぶうえでより効果的である場面で活用されていくべきだと考える。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させるための工夫が必要であり、教員はこれまでやってきた授業形態を見直していくべきだと考える。 ・習熟度別授業では生徒が自らクラスを選ぶことができるようにした方が苦手を克服できるのではないかと思う。	
■評価項目(年度達成目標)2に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。 ・1年次の段階から職業別や分野別の進路ガイダンス等を実施するなど職業観や勤労観の育成に力を入れていることで、希望進路の実現率も高い数値となっている。 ・全員参加型のインターンシップを取り入れていることは、生徒の職業観や勤労観を高めるために非常に有効であると考える。 ・自らの適性や能力について考えることで、高校生活で学ぶことが明確となり、将来を見据えて授業や諸活動に取り組めるのは生徒にとって大変有意義であると考えている。 ・一人一人の進路希望を実現させるためにインターンシップやガイダンスなどを行っているため、進路に関する情報は得られ易いが、その反面、進路見学会や分野別ガイダンス等に希望の進路先がない生徒は少し満足できない部分がある。	
■評価項目(年度達成目標)3に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。 ・コロナ禍や働き方改革の推進を踏まえ、新たな連携・協働に向けた意見交換ができると良いと思う。 ・地域や家庭との連携はとても重要だが、ここ数年はコロナの関係で制限されることも多く、行事や活動の場面が閉ざされてしまったように感じるが、その中でも鶴ヶ島清風高校は学校広報活動の効率化を図ったことで保護者からのアンケートも肯定回答割合が高く、良い取組をされていると感じる。 ・コロナ禍での全員参加型のインターンシップの実施など大変だったと思うが、今後も地元企業と連携を密にしながら、生徒のために御尽力いただきたい。 ・インターネットの普及により、デジタル化が進んでいるが、それを生かした地域への参画ができています。	